

第27回横浜市都市美対策審議会表彰広報部会会議録	
議 題	審議事項 議事 1 第13回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議） 議事 2 その他
日 時	令和 8 年 6 月 25 日（木）午前10時00分から午前11時10分まで
開催場所	横浜役所 18階 なみき18
出席委員 （敬称略）	三輪律江、北原まどか、真田純子、東海林弘靖
欠席委員 （敬称略）	青木祐介
出席した 幹事・書記	書 記：寺口 達志（都市整備局企画部担当部長） 馬場 明希（都市整備局企画部都市デザイン室長） 立石 孝司（都市整備局地域まちづくり部景観調整課長）
関 係 者	議事 1：新井貴美子（都市整備局地域まちづくり部景観調整課担当係長）
開催形態	公開（傍聴者：なし）
決定事項	【議事 1】市民が参加できる新たな試みについては、了承。具体的な方法については、ご意見をもとに引き続き検討する。
議 事	1 開 会 （立石書記） それでは、ただいまより第27回横浜市都市美対策審議会表彰広報部会を始めます。本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私は、事務局を務めます景観調整課長の立石でございます。よろしくお願いいたします。 本日は表彰広報部会の本年度初めての開催となります。書記につきまして、4月に人事異動がございましたのでご紹介させていただきます。 都市整備局企画部担当部長の寺口達志です。 （寺口書記） 寺口です。よろしくお願いいたします。 （立石書記） そのほかに、都市デザイン室長の馬場、私、立石が務めさせていただきます。 次に、部会の成立についてです。本日は、青木委員からご欠席の連絡を頂いておりまして、委員5名中4名が出席でございます。横浜市都市美対策審議会運営要領第13条第4項の規定により、部会成立となっております。 本日の議事は、審議案件1件となります。では、三輪部会長に以降の議事進行をお願いします。 （三輪部会長） 皆様、おはようございます。まずは、皆様第12回の審査、先日の表彰式の出席、お疲れ様でした。本日は、第13回に向けての議事1件なんですけれども、皆さんから活発なご意見を頂ければと思います。 では、会議の公開について、まず、事務局からご説明をお願いします。 （立石書記） 本日の部会については、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条に基づき公開とします。傍聴人は現在のところいませんので、注意事項は省略させていただきます。 2 議 事 （1）第13回横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門について（審議） 事務局から説明を行った。 （三輪部会長） ありがとうございました。今回、第13回の少しプラスした提案が事務局からなされましたけれども、まずは皆さんからご質問・ご意見を頂ければと思いますので、どこからでも結構です。よろしく

	お願いします。何か補足はありますか。 (立石書記) ご欠席の青木委員からご意見を頂いております。 (三輪部会長) では、お願いします。 (新井係長) 青木委員から事前にご意見を頂いております。市民賞、選考後に投票などで決める賞の創設について、横浜・人・まち・デザイン賞の市民への普及の点では良い試みだと思います。ただし、デザイン賞の趣旨がきちんと伝わらないと、ただ単に見た目のきれいさに偏って選ばれてしまう懸念があります。建物の見た目だけでなく、設計・デザインの意図や、地域の中での運用の在り方など、受賞作品の選考理由を理解した上で投票してもらえるような工夫が必要だと思います。 2つ目が、受賞作品の選考理由をきちんと伝える意味では、投票に際してはパネル展示場での投票とウェブ投票の併用が望ましいです。 次、選考後に投票などで決める賞は、受賞作品から最優秀賞や大賞を選ぶものではなく、あくまでもプラスアルファの賞と位置づけ、デザイン賞の趣旨や意義を市民へ発信する機会として活用できるのではないかと思います。 次、ピンバッジの配布については、製作時に、受賞した建物の著作権等の確認が必要ではないでしょうか。 続いて、広報先を拡大したことで若い世代への訴求と認知度向上につながったことは喜ばしいですが、募集時に行う応募者の属性の確認については、年齢区分（特に30代から50代の内訳）や職業（自由記述式にするなど）は、もう少し細かく情報を得たほうが今後の分析にも有効と思います。以上、ご意見を頂きました。 (三輪部会長) ありがとうございます。青木委員のご意見がありましたけれども、皆様のほうでどうでしょうか。では、真田委員、お願いします。 (真田委員) 第13回の新たな取組としての市民賞ですけれども、青木委員がおっしゃっていたように付加的な、プラスアルファ的なという話はあるんですけれども、どうしてもそういうふうには受け取られないことがあったりとか、あと、市民賞を取った人がどういうふうに宣伝するかというと、やはり1位になりましたという言い方をすると思うので、なかなかこちらが思っているようには伝わらないのではないかな。そうすると、審査員が一番いいと思っていたものではないものが1位として出ていってしまうということになり得るなと思って、市民賞を設けるのはいいんですけれども、だとすると、大賞とか、審査員が選ぶものも同時に設けたほうがいいのかなと思いました。 もう一つがピンバッジですけれども、これは青木委員がおっしゃっていたように私も著作権のことが気になって、つくれるものとつけれないものが出てきたりとか、あと、ピンバッジだけだと何で受賞したのかというのが伝わりにくかったりするというのと、あと、もう一つ気になるのが、税金でここまでやるかという話はあるかなというような気はしました。土木学会が土木の日に、新宿の駅の広場のところで土木展というのを毎年やっているんですけれども、そのときはアンケートに答えてくれた人に土木施設のカードを配っていて、それもガチャで、どの土木施設が出てくるかというのは選べない感じが確かなっていったと思うんですけれども、そのカードにはどういうものなのかという説明があったりして、今年の分だけでなく今までの応募作品全部をやっていくと。そういうのもあるかなと思ったりしました。ということで、どうやったら伝わるかというようなところを踏まえた原案の改善をしていったらいいかなと思います。 (三輪部会長) ありがとうございます。大事な視点ですね。ピンバッジはないと思うので、一旦、そこは分かりやすく、ないという方向でいいのではないかと思いますけれども、ほかはいかがですか。北原委員とかいかがですか。まずは恐らくこういう付加賞みたいなものを考えることについて、今日はある程度方針として固めて、内容に関しては皆さんからいろいろなご意見があると思いますので、もうちょっと、考えるのにもう一回ぐらいあると聞いています。 (立石書記) そうですね。本日は、第13回に向けて新たな賞を設けていこうかなという我々の意思表示ということで、それに対して委員の皆様のいろいろなご意見やアイデアを、今、真田委員からカードというこ
--	---

	ともお聞きしましたが、そういったところをお聞きした上で、次回は10月を予定しておりますけれども、そこまでにいろいろ検討を重ね、そこで、こういう感じでいかがでしょうかという再提案をさせていただこうと思います。ですので、今日は忌憚ないご意見を頂いて、我々もそれを吸収させていただくという会かなと思っておりますので、よろしくお願いします。 (三輪部会長) では、ぜひいろいろなご意見を頂ければと思いますが、いかがですか。東海林委員、お願いします。 (東海林委員) こういった賞、アワードというのは長く続いていると伺っているんで、続けること自体に意味がまずあるだろうと。それから、やはり関心度を上げるための工夫が必要だということですね。だから、応募作品数が増えたりとかいうことになるんですけども、一方で、皆さん方もちょっと心配されているのは、市民の投票というのがどれだけ都市景観に対して向上するような方向に動いているかどうかという。単なる人気投票みたいな感じになってしまうとどうなのかという懸念があることだと思います。基本的には、やはり専門家で見識のある人が評価していくことが重要だと思うんですが、加えて、例えば小学生はどういう場所が好きなのかとか、どういふ景観がいいのかというような、次世代、次々世代ぐらいの人の好みというのは吸い上げていく必要があるし、早くからそういう教育とか関心を持っていくようなお子さんがいっぱい出てくれば、やがて大人になったときに、より高い次元の議論に参加できるんだろうなと思うので、なるべく敷居は低くして多くの参加者に参加してもらうための工夫、ピンバッジもいいと思いますし、できるだけ恥ずかしがらずに思い切りやったほうがいいのではないかと思います。 (三輪部会長) ありがとうございます。 (北原委員) 市民賞について今ご意見が出ているかと思いますが。こちらに関しては、私も面白いな、いいなと思ったんですけども、市民賞は一種の広報につながるかなと思います。広報であり、また、市民参加につながるというか、街並みというものをただ景観として享受するだけでなく、それに対してエールを送ったりすることは、市民にとって愛着形成であったり、自分の意思表示が何かにつながるみたいなところでは、アクションを促すことができるのもいいきっかけになるのかなと思います。恐らく、市民賞を設置するに当たっては、それによって何をもちたしたいのかみたいなことを明確にしていけるとよいかなと思っております。もちろん、まちづくりとか街並み、景観を良くしていくことが一番というふうには思うんですけども、それによって、例えば市民参加につながる、だったらどういふ市民参加につながるのかとか、広報につながる、じゃあどういふ形で広報されていくのがいいのかなとか、広報して認知が広がることによって何につながるのかみたいなことをしっかりと設計されていけるとよいかなと思いました。 私は、人・まち・デザイン賞は、自分の属性としてもまちづくりNPOなので、どちらかというと地域まちづくり部門のほうが近いかなとは思っているんですけども、ソフトとハードが融合するという横浜のまちづくりのすごい強みだなというふうには思っております。そういう意味でも、市民賞という中で、本当に市民から利用されて愛されていることが伝わっていくという意味合いでは非常に重要なかなと思います。一方で、私はこちらのまちなみ景観部門のほうに参加させていただいて、こんなふうには景観を良くするために、横浜市も民間事業者さんも工夫して調整して努力をされてということがとてもよく分かりまして、その市民賞をつくる中でもそういう努力の軌跡であったり、街並みを良くしていくためのルールやガイドラインみたいなものが伝わっていくことが大事なのではないかなと思うんですね。ただ単に与えられるだけの景観ではなく、本当に横浜市の長い歴史の中で、美しい街並みとか、美しい建物、景観というのをつくってこられた様々な努力というものが伝わっていくとよいと思うので、そこに付加していく情報がどういふものになったらいいかということをご検討いただければと思います。 また、こうした市民賞は、恐らく知っている人とか、参加する人の属性というのは絶対偏ると思いますし、100%の公平性というのは多分あり得ないのではないかなと思うんですけども、そのあり得ない中でやってみてどうだったかということ、複数年、複数回かけて検証していったほうがいいと思います。1回やってみてああだこうだみたいなのは出ると思うんですけども、それにめげずに、中長期的にこの賞がもたらすものは何かみたいなことを考えて検証していけるような、少し長い目で見た検討・検証がされるといいなと思いました。
--	---

	(三輪部会長) ありがとうございます。そうですね。私も最初お伺いしたときに、率直に言うと青木委員と同じような感覚だったんですけれども、今のお話も聞きながらもう一つあったのは、シール貼り方式は本当に人気投票なんですよね。かつ、いっぱい貼ってあるからこれに乗って貼っちゃおうみたいな誘発される話だったりするので、この手法で賞をあげるのはちょっと悩ましいかなと思っています。これ自体は全然悪くないんですけれども、これで一番多かったからこうです、何々賞みたいな市民賞に直結するよりは、こうでしたという事実でも、そのレベルでもまずいいのかなということがまず一点あったのと、本当にちゃんとやるんだったら、投票してもらって、その理由を聞く。かつこいいからもあるかもしれないし、ここがきれいだからとか、行ったことがあるからとか、いろいろ理由はあるかもしれないですけれども、理由を聞くのも一つ、ウェブだったらできるかもしれない。それは、先ほどの北原委員とかのお話で言えば、市民がどういうふうに街を見ているかみたいな視点の、こういうものに関心を持つ人の視点がどんなところにあるかみたいなことを見るのに、併せて年代も聞いてアンケート方式にするというのものもあるかなと思いました。つまり、「募集する」と「報告する」のワンセットみたいなイメージで、こんな感じになりましたけど皆さんはどうですかみたいな話でやるのも一つかもしれない。だから、賞という言い方がそこにあるかな、どうかなというのがまず一つ。 あとは、もうちょっと戦略的に考えると、次世代と先ほど東海林委員がおっしゃったんですけれども、例えばぶっちゃけた話、建築学生が選ぶみたいな。それだったら別に賞になっていても、自分は選ばれなかったんだとか、ある特定の層に受けたんだみたいに、あまり負に考えないというか、そうかみたいな話になるので。市民と言ってしまおうといろいろな世代がいろいろな観点で言うから、若干とがって賞をそういうふうにするのも一つなのかなと思ったり、いろいろアイデア的なことを考えました。 さっき真田委員がおっしゃっていたカード方式も面白いなと。これも説明が書いてあるんですけれども、どこまで説明を読んでシールをつけているか分からないじゃないですか。パネル自体、私たちもそうだったんですけれども、やはり物を見てみないと分からなかったりするので、多分、この手ものは、もうちょっと作品を説明するQRコードとか貼ったとしても、じっくり読んで選ぶってあまりこういう感じのときにはないから。これはこれで意味があるので、それが賞に直結しないオープンの方というのはいいかないかなと思ったりしました。 一方で、真田委員のカードみたいなものは、これに関して今年度はカードをつくってみますと。例えば100枚置いてあってどれが一番減るかみたいな。全部欲しい人もいるかもしれないし、特定の何かが減るかもしれないし、減っていく減り率みたいなものもありかなと思ったりもするんですけれども、賞の名称と講評のところだけは考えたほうがいいかもしれないなと。応募した人に対して、こういう感じでフィードバックするようなことは絶対やったほうがいいと思うんですね。選ばれましたよというだけの、今はそういう状態ですけれども、あなたならどう？みたいな。推薦した人もいるので、別のものを推薦している人もいるんだけど、結果、こうなりました。それに対して、あなたもどういうふうに考えますかというイメージで、オープンにもう一回フィードバックするみたいなのがさっきの市民参加的な話だったり、じゃあもうちょっとこういう視点でもいいんだったらこういうのも選ぼうかなみたいになるとか、そういうサイクルかなとも思ったりして、いろいろなアイデアはありそうなんですけれども、どこに落とすかというのが結構難しいかもしれないです。そうですね。市民賞という名前がちょっと。どうですか。 (真田委員) 確かに。賞という名前ではなくて、表彰式のときに、市民に聞いたらこんな感じでしてみたいのとか、賞とは言わずにするというのはあると思います。それをじゃあどうやって意見を募集するかという。 (三輪部会長) これはだって賞としてやっていないからみんなフランクにやっているんですけれども、これがもし市民賞の選考のためのボードとなっていたら、まあまあ慎重になるかもしれない。だから、やはり理由とか、人気投票で、譲るとしたらそういうこともあるかなとか、あとは理由を聞いたほうがいいんじゃないかなとか。 (真田委員) だから、青木委員がおっしゃっていたように、よく理解して投票してもらえるとというのが重要で、それと広く市民から意見を募るというのがあまり両立しないので、それをどうするかという問題があって、本当に広くこういう賞があるということを知らせるだけだったら人気投票でもしょうがない。
--	---

	でも、それなりの扱いにするという感じで、もしちゃんと理解してもらおうと思ったら、市民対象を全部見に行くツアーをやって、その中で意見を聞くみたいな。それは、募集する段階である程度は広報になると思うので。 (三輪部会長) おお。新たな提案。面白いと思います。学生とかだったら絶対乗ってくる。 (真田委員) 建築の学生とかだったら。まあ、それなりにお金がかかるから、どっちかに絞るのが、本当にいいものを選びたいと思うのか、広報に特化するのか。広報に特化するんだったら人気投票でも仕方ないけれども、でもというか、受賞している人が企業とかだとあまりやらないと思いますけれども、個人とかだとSNSで投票してくださいとかいうふうに呼びかけたりして、それ自体が広報になるので、どちらを取るかなのかなという気はします。ただ、最終的にその投票の結果が誤解を生まないようにするというところは気をつける必要があると思いますけれども、北原委員がおっしゃったように目的を、何を達成したいかというのを整理したほうがいいかもしれないです。 (三輪部会長) だから、あまりこういう付加的な、物ありきというのはちょっと違う気がします。むしろ説明カードのほうがまだいいかなと。ピンバッジは著作権の問題をクリアするのに、AはよくてBは駄目といったときにどうするかという話に多分なるので、みんながいいという状態にはならない気がするのです。多分、こういうのやりますと言ったら、えー？と言うような気がするから、足並みをそろえられないようなグッズづくりみたいなのはちょっとやめたほうがいいかなと。 (真田委員) カードだと賞の一環でできるから、どういう理由で受賞したのかも含めて。 (三輪部会長) ちゃんとプロに写真を撮ってもらおうとか、割とかっこいいという言い方はあれですが、デザインセンスのいいものだったらそのまま持っていてもいいかなと思うとか。最近、マンホールカードみたいながありますよね。 (真田委員) そうそう。ダムカードとかいろいろある。 (北原委員) 真田委員のお話でトレカみたいなものを思いついたんですが、それ自体が読んで楽しくなったり、学んで知って、おお、という感じで、横浜の建築物トレカみたいなのがあったら、私は集めてみたいかもしれない。 (三輪部会長) それはそれで面白いかもしれないですね。 (立石書記) 確かにカードとかですと、選考理由とか良かった点というところも市民に伝えやすいですが、ピンバッジはバッジだけです。我々も著作権の問題はあるだろうなというところで、そこだけ、ご了解いただいた受賞者の方々のものだけつくるかみたいなことも考えながら、一応、今日は提案なので、皆さんの議論を呼ぶために提案させていただきました。 それで、他都市をちょっと調べた中で、もちろん市民賞的なことでやっている都市がありますけれども、いずれの都市も、市民からの親しみやすさとか、日常的な愛着を評価に反映させたいと思ってやっているようです。いずれにしても、全ての応募作品に対してという形では厳しいようで、審議会等で専門委員会の方に選んでもらって、それに対して市民投票するという2段階方式を採用しています。例えば北九州市さんの景観賞だと、今言ったように、まず、応募作品から審議会を選んだものをファイナリストとして、それを対象に市民投票を実施すると。ここでは投票結果をそのまま市民賞としてストレートに反映するというやり方です。 (真田委員) それは市民賞だけですか。 (立石書記) いや、ほかにも選ばれて市民賞から外れたものは…… (三輪部会長) 奨励賞。 (立石書記)
--	---

	奨励賞ではなくて、ちゃんと選考された受賞作の中から市民賞みたいな冠がつくという感じですね。 (真田委員) 市民賞とその他なのか、その他の中に選考委員がもうちょっと優劣つけた賞があるのか。 (立石書記) そこまでは詳しく調べていないです。 (真田委員) 1個だけだとやはり誤解が生まれるというのが私の懸念なので。賞という名前をつけるのであればですね。 (立石書記) ちょっとそこはもう一回、次回までに調べておきます。あと、福岡市さんも景観賞みたいなものがあるって、書類審査の段階で現地調査に進む物件と市民投票の対象とする物件をそれぞれ仕分けると。専門家の委員の方から建築的な専門性を持った視点で選んでいただいて、それと市民投票の対象とする物件を並行して進めるということらしいです。 (三輪部会長) ああ。それは難しいな。 (立石書記) ちょっとこれは福岡市さんにヒアリングしないと、具体的にどうやっているのかというのは分からないので。あと、大阪の豊中市さんはすごくハードルの低いやり方みたいで、市民の方の応募があった写真を市のホームページや公共施設で巡回展示して、2票以上得票があったら全て市民賞として発表しますと。ですので、ちょっと言い方は悪いですけども、知らない間に勝手に応募されたものがいつの間にか市民賞として表彰されている、みたいな事象が起きるのではないかという危惧があるので、ここも具体的なその辺の心配事、懸念事項を確認したいと。いずれにしろ2段階方式みたいなことが幾つかの都市で行われているというのが調べた内容です。ですので、先生方から今頂いたような懸念事項、公平性とか、組織票への対策というところもあるのかなと思いますけれども。 (真田委員) いや、私は、組織票は別にいいというか、賞という名前をつけるのでなければ、組織票でその活動自体が広報になるからいいんじゃないかなと。 (立石書記) 呼び名、呼び方ですね。市民賞というと、市民全てがいいと思ったという受け止めがされるということも。名前で誘導されるというか。 (真田委員) そうです。本当にいいかどうか分からなくてファンが多いものというふうになってしまうから。でも、それはそれでそういうものだというふうに分かっていれば全然問題なくて。 (東海林委員) 今、方法論みたいな話で大事なことだと思いますけれども、これは結局、何でもこういうことをやっているかという、最初に書いてあるように、活力と魅力のあるまちづくりの推進に寄与することが目的だからということですね。だから、横浜という場所が、ローカルな話でやっているだけではなくて、世界の中での横浜という位置づけのために魅力あるまちづくりをしているというスタンスだとすると、市民が選んでよかったという話ではなくて、専門家が極めて専門的な意見で、これが長い時間の中で発展的に横浜の魅力を増大していくんだというような評価がされる賞であってほしいなと思います。一方で、一緒に議論するのが難しいのは、こういった賞があって、それを市民の方々にも周知して、理解して、自分も参加したいと思わせるハードルの低さというのを同時に提示する必要があるので、それは両方やる必要があるのかなと。 (三輪部会長) そうですね。なので、今のイメージだと、市民賞というふうにするかしないかみたいな話だと、何となくしない方がいいのかなとか。 (東海林委員) だから、名前を決めればいいんですよね。 (三輪部会長) そうそう。市民賞ではなくて。 (立石書記)
--	---

	その辺、中で話したんですけれども、なかなかいいアイデアが浮かばなくて。委員おっしゃるように、優秀賞がある中で、ほかにこういうのがあるというやり方だとすごく分かりやすいんですけれども、今のままで何とか賞ということ、結局、もらった側からいうと、何か良い太鼓判付きましたよみたいなことだけだと、まあ、市民賞というようなことでやらないと、もらった側はちょっと受け止め方が難しい。 (三輪部会長) そうなんだけれども、まずは我々がちゃんと6つとか幾つか選ぶじゃないですか。その時点で今までどおり評価はされているわけですよ。それをちゃんと伝えるということはあっていいんですけども、市民から選ばれて賞を受けるというよりも、さっきも言ったように、表彰される物件に対するフィードバックとしてこういうふうに捉えられているんだと分かってもらうというのは、その人たちにはいいと思っているんですよ。こんなふうに市民の人が捉えてくれているんだったら頑張ってお守ろうとか、改築するのやめようとか、分からないですけれども、我々が専門的に言う以外に、みんなからもそう言われているんだたらちゃんと頑張らなきゃなと思ってもらう背中を押すだけの賞なので、1等である必要はないんじゃないかと思っているんですよ。 (東海林委員) なるほど、そうですね。例えばここに出ていましたけれども、ジェネレーションごとに好みは違っているので、市民といたって1種類ではないので、それを分析しつつ、情報、データとして取り出すことができれば、それはそっちのほうが価値があるんじゃないか。 (三輪部会長) だから、若い人に人気の建物、あ、そうなんだ、若い人ってこういうのが好きなんだとか、それこそさっきも言った建築学の学生が選ぶという、少し建築をかじっていてとがっているんだけど、でも、そういう子たちに響く建物ってこれなんだというのも、高齢の人にはあまりお薦めされないんだけど若い人にはうちの物件は合うのでみたいな話とか、いや、オールマイティーなのよねみたいな話だったりとかは伝わってもいいのかなと思うので、もうちょっと、せっかくだったらこういうただのシールではなくてちゃんと伝えることと、理由もちゃんとつけつつ年代も聞くような感じで少し整理して、市民が選ぶというのが年代別で見えてくるとか。今年はもう既に賞になっているので、全員がそれぞれに賞をつけるというのは結構大変だと思うので。 (東海林委員) 今までの何とか賞という、賞という日本語の言葉、タイトルは変えたほうがいいということはあるんですよ。それを例えば単純にアワードという言い方に変えたとしても、そういうふうに区別されているということは必要だと思いますね。 (三輪部会長) そうですね。だって、私たちの中でも分かれていますから。みんながいろいろな視点で分かれているというか、1つの基準ではないし、時系列があるものだし。 (東海林委員) 価値観が多様化しているので、みんなが選ぶということにはならないと思うんですよ。ただ、どういう観点で良いのかというそのストーリー、それを評価する言葉というのが大事だと思うんです。 (三輪部会長) それって例えば市民の声みたいな感じで、終わった後、冊子を出すじゃないですか。そこにはちゃんと市民からのアンケートとか、投票という言い方をするとあれですけども、要は今回やったようなことの中でこういうふうに捉えられていますみたいなことが書かれていたりするとかは、ネタ的に絶対使えると思うんですよ。私たちが個別で個票を書くじゃないですか。それともまたちょっと違った、市民からはこんなふうに応援メッセージが来ていますみたいな、そういうのを入れていくのも一つのやり方。 (真田委員) そこはだから、建築学生が選ぶとかいうのもいいし面白いけれども、それだとなかなか裾野が広がらないという問題があるから、やはり丁寧に見てちゃんと評価する市民の投票なのか、本当に広く浅くで表面的でもいいから広げるということなのかという2つあるような気がして、それはやはり両立はなかなか難しいから、広報というか認知度向上というのが今回の主目的だとすると、私は広げていいんじゃないかと。 (立石書記) 我々もそこが必要かなという意識はあるので。
--	--

	(三輪部会長) 大学とか高校に配っているから、大分増えたのは分かってきましたけれども。 (真田委員) だとすると、やはり賞ではないので、浅くというか、人気投票だとすると賞ではないから、それはそれでこうでしたよという結果かなと思いますし、それプラスアルファで建築学科の人たちはこう見ましたよみたいなのもあってもいいとは思うんですけども、別でやったらいいかなと思います。 (新井係長) どうやって選ばれたのかというのがちゃんと分かるような形で公表するという。 (真田委員) そうです。それは賞ではなくて、子供たちに出前授業みたいな感じでちゃんと説明して、そうしたらこうでしたよとか、建築学科の人はこういう見方をしました、一般市民に広く聞いたらこれが一番人気でしたみたいな、そんな感じじゃないかなと。それを表彰式で説明すればいいのかなと。 (三輪部会長) これは表彰式の後になるのか、前になるのか、そこもまだ決めていないんですって。 (立石書記) 前ですね。ただ、今回の表彰式には市長に出席いただいて、受賞者側にもかなり好評でよかったという声が来ていますので、次回は、市会の会期が終わってからのほうがスケジュールを確保しやすいということで1か月遅れの6月開催予定にしています。 (三輪部会長) 市長のために1か月も。 (立石書記) いや、我々も市民投票を追加するのでちょうどいいかなということですね。 (三輪部会長) 地域まちづくり部門の方もスケジュール的にできそうですか。 (立石書記) 一緒にできそうです。 (寺口書記) まちなみ景観部門は、受賞者が施工者や設計者なので、市長から直接、表彰状をもらえると、会社に帰ってうれしいですね。そこはやはりこの賞自体の表彰対象者がそういう方々なので。 (三輪部会長) なるほど。そういうものなんですね。 (真田委員) 写真とか会社のホームページに載せたいですね。 (寺口書記) 表彰式の写真を撮ったり、そういうのがやはり。 (立石書記) 今回も数社から表彰式の写真をホームページに載せたいという要望が来ています。 (三輪部会長) まあ、いいことなんですよ。そうすると、ちょっと時間的に余裕ができるというか、そうでもないですか。 (立石書記) 事務局的にはあまり余裕がなくなってきました。 (東海林委員) 色々やることも増える。 (立石書記) やり方によってはということになりますが。 (三輪部会長) そうなんですね。さっきのバスツアーなんて特典みたいな感じになっちゃうから何十人も来られないじゃないですか。お金もないし、見て回らなきゃいけないし。写真だけでわーわー言っているようにないから、やはり現物を見てもらっての雰囲気かなと思うので、意図としてはちゃんとそこら辺を分かってもらったり、もしよかったら現地に足運んでねみたいなきっかけだったり、そういうイメージのもので市民がアクセスできるというところに帰着するのがいいんじゃないかな。
--	--

	(北原委員) ピンバッジではなくて、横浜・人・まち・デザイン賞を巡るちょっとしたツアーマップみたいなものをつくって、それを応募してくれた人へのノベルティーにして実際回ってみてね みたいにやるのもいいかもしれない。 (三輪部会長) それは地域まちづくり部門と一緒に交ぜてやってもいいんじゃないですか。私は結構、トレーディングカードはいいと思って。私、マンホールカード集めているんですよ。大体、自治体でつくってて。 (新井係長) 横浜市も下水道のマンホールカードはあります。 (三輪部会長) 分かりました。それはいいとして、でも、そういうのは意外に集めたがる人はいるかもしれない。 (北原委員) 例えば投票する際に、シールとかではなくて、私はウェブがいいかなと思って。例えば現物のパネルを見てもらってQRでウェブ投票していただくのがいいかなと思うんですけども、マーケティングにすごく効くと思うのです。何が伝わっていて何が伝わっていないのかみたいな、そういう回答をしっかりと設計して、賞なのかは別としても、市民が選ぶというときに、もたらしたい効果がきちんと取れるように設計すると、その後の施策にとっても有効な使い方ができるかなと思います。 (真田委員) 確かに。そうすると、1個選ぶのではなくて。 (三輪部会長) 複数でもいいですよ。 (真田委員) 横浜の何か選考基準があったじゃないですか。そういうのに合わせて。 (三輪部会長) この6つの選考基準のどれに当てはまると思う？みたいな、そういう選択肢でもいいかもしれない。 (真田委員) それだと、中身をちゃんと読まないと選べないとか。 (三輪部会長) 自由記述だと大変だけれども、こういう感じで、私はこれ、みたいな。 (真田委員) 横浜らしさの演出に寄与しているとか、横浜らしさって何かと考えたりというプロセスが重要だという気もするし。 (寺口書記) 今の話だと、投票というよりはアンケートに近くなる。 (真田委員) そうです。 (寺口書記) 1位とか順位づけするわけではなくて、受賞したものが、こういうキーワードのどれと親和性が一番高いというか、あなたはどれに寄与していると思いますかという、その個性を市民の目で見たいな。 (三輪部会長) でも、それに全部、一個一個チェックする必要はないので、まず自分が一番気になったもの、いいなと思うものを1つ選んでもらって、それはどれに当てはまると思いますかというのでも。 (真田委員) それでもいいと思います。 (三輪部会長) 気軽さでいえばそっちの方が時間が短くなる。問題は、横浜市の投票って、いちいち横浜市のウェブシステムに入らなければいけない、あの大変さが面倒くさいんですよね。入り口のところで立ってQRコードを読んであれをやるというのが面倒くさい。
--	--

	(立石書記) 都市デザイン室が持っているSNSがあるので、それを使わせてもらおうといけるかな。 (馬場書記) 発信はSNSでできるんですけれども、もらうときにはやはりあのシステムを使わないといけないので、ちょっと使いにくいんですね。 (三輪部会長) あのシステムなんですよ。あれがちょっと面倒くさいんですね。何とかしてほしいな。 (東海林委員) 全然じゃあ有効じゃないですね。SNSというか、いいところを全然使っていないですね。 (三輪部会長) そうなんですよ。我々がイメージしているのは、すぐにGoogleフォームに行くようなイメージなんだけど、そうじゃない。横浜市のウェブはワンクッション入るから、そこが悩ましいんですね。外部に委託できないのか。 (寺口書記) 大きい自治体の方がセキュリティが厳しいので、大体みんなが知恵を絞るとファイヤーウォールが堅くなってシステムが硬直化するというのが大都市のマイナス面でございまして。 (真田委員) でも、ただの投票だから。 (寺口書記) そうですね。どこか外にアウトソーシングできればいいんですけれども、全員にフィードバックしようとして得票数みたいなのを出すと、順位づけが出ちゃうじゃないですか。それは多分、本意ではないのかなと。せっかくすばらしいと選んだのに、おまえがビリだみたいなの。そこにまた違う順位づけをしてしまうと、この部会の意義とちょっとずれちゃうかなと思ったので。 (三輪部会長) ビリだというふうにはならなくていいと思います。 (寺口書記) でも、1位だけは出して。 (三輪部会長) 1位という出し方はしないです。 (東海林委員) だから、そういうのはなしでいいんじゃないですか。 (寺口書記) それはなしで、フィードバックされただけの。 (東海林委員) 10個ぐらいのマイフェイバリットプロジェクトが市民に選ばれたというぐらいで、そこには順位はないというのでいいんじゃないですか。 (寺口書記) マイフェイバリットというのは、こういうことでフェイバリットだと言われたよというふうに、良さだけを返してあげる。 (東海林委員) そうそう。それは、できたら、どのジェネレーションがどういふのを選んでいるのかということは明らかにしたほうがいいと思います。 (寺口書記) そうすると、1つを選び出すという作業ではなくて、今回この賞を取った人たちが、我々はこのコンセプト6つを設定して皆様方に見ていただいているんですけれども、市民の方はこれをどういふ属性としてみなしているとか、どういふ世代の方がどういふ見方をされているかというのを、設計者や事業者様の方にお返ししてあげる、そんな仕組みになる。 (東海林委員) なるべく簡単な方法でそれが取れるといいですね。カテゴリーというか評価基準があるんだったら、どこかに丸をつけてもらえばいい。SNSが面倒くさいというのだったら紙で。選挙みたいに丸つけてぼんと入れてもらって、それはどこか何か所かの主要な、区役所なりに置いておくと。 (寺口書記)
--	--

	投票箱を置いて投票みたいにして丸つけて選んでもらって、自由記入があってもいいとか、そんなことですかね。年齢とか属性を聞きながら。 (東海林委員) 例えば100個出てきても困るので、10個ぐらいを抽出するんでしょうね。 (三輪部会長) いやいや、これは我々がまず選んでからだから、せいぜい多くても7、8ぐらい。 (寺口書記) そうです。選ばれたものに対して。 (立石書記) 1段階選考をやった上でやろうかなと。 (東海林委員) ああ。そのフィードダウンがかかった上でやるということですか。 (三輪部会長) そうです。我々が選出した上でどう？というふうに聞くので。全部出ていくと大変なことになってしまうので、そういう賞ではなくて、なので、さっきの北九州市バージョン。 (東海林委員) これって幾つあったんでしたっけ。 (三輪部会長) 去年というかこの間は7つ。少ないときは3とか4ですよ。だから、それはもう候補というかちゃんと賞をあげます、人・まち・デザイン賞になりましたということが我々でまず決定していて、それプラスアルファ、市民の人たちが特にその中で気になるものというのはどれ？みたいな話をアンケート形式で聞きつつ、こんな感じでしたとフィードバックをするという。 (寺口書記) そうすると、今、部会長がおっしゃられたのは、投票ではないんですよね。アンケートなんです。意見を聞くという作業になっている。投票なのか、意見を聞くのか。アンケートなのか。投票は順位をつけるというイメージになっていたんですけども、ではなくて、賞を取りました、皆さんの感想とかご意見とかお気持ちとか聞かせてということですか。 (三輪部会長) さっきの、こちらのメンバーでは、投票ではない方がいいのではないか。つまり、1位、2位、3位は選ばなくていいんじゃないのというのが我々の意見です。多分、皆さんそんなイメージだと思いますけど。 (東海林委員) 例えば選考委員が7つ選んだという中から、そこに投票すると。そういうイメージですか。 (寺口書記) というご提案なんですけれども、ちょっと違うかな。 (三輪部会長) 投票じゃなくてアンケート。投票とは言っていないから。 (寺口書記) すみません。こちらでご提案として投票と出したので。 (三輪部会長) これはそうなんです。 (寺口書記) こちらで投票というプロセスを取ったんですけども、ちょっとお話聞いていると投票ではないんじゃないかと思ったので。 (東海林委員) それは分かりました。そのときに、7つぐらいだと、ほとんど分散しちゃうじゃないですか。そうすると、その7つの中で、どのように何を市民がどうしたということになるかが見えない。 (立石書記) 投票を提案しておきながら何なんですけれども、委員の皆様の意見を受けて私が解釈すると、事業者さんや設計者さんには、専門家の方々から何で選ばれたのかというのは公開していませんので、そこは分からないんですけども、市民の皆さんから見たらどういう点でうちが評価を頂いたんだなというところは、そのアンケートの結果を事業者さんにお伝えすることで伝わるかなというところで、そ
--	---

	れをやろうという理解でいいですか。 (真田委員) そうですね。 (三輪部会長) 我々も講評しているじゃないですか。そうですね。だから1位はつけないということです。 (立石書記) 専門家視点と市民の視点が2つ分かるみたいなの。 (三輪部会長) そういうイメージです。 (真田委員) 7つに対して全部、さっきの評価軸のどれなのかというのでもいいし、1つでも3つでも選んだ上でやってもいいし、それは答えやすい量というのがあると思うので、工夫したらいいと思うんですけども。 (三輪部会長) 多分、ステップとしては、この中でどれが一番いいと思う？という1つを選んでもらって、その理由というのがシンプルで答えやすいと。一個一個、これどう？これどう？と聞くのは結構長くて、市民の人たちに対してはあれで、ただ、それを聞くときに、さっきから言っている属性だったりとか、それはちゃんと聞いておかないと、年代によつての違いとか、皆さんのほうも、こういう観点なんだとか、こういうものに関心を持って投票してくれるのはどういう人なのかとか、それは振り返り的なものになるから、寺口さんがおっしゃるようにアンケート的なものになるんですけども、それをうまく生かして公表することはできるのではないかと。でもそれは、1位はこれですという公表の仕方ではないよねと。我々も1位がこれですとは言っていないので。 (立石書記) そうです。現状では言っていない。 (東海林委員) まあ、やってみたら。やりながら考えるということしかないのでは。 (北原委員) 市民からすると楽しいほうがいいので、言葉をただフィードバックしてくださいと言われても多分、何のために？みたいになるので、やはりインセンティブとか楽しさがないと、そこまでモチベーションを持ってやるかなと。どんどんハードルが。 (三輪部会長) そう。だから、アンケートと言っちゃったら絶対駄目なんです。 (北原委員) マイフェイバリットを選ぼうみたいな言葉があったんですけども、そういうちょっとキャッチーなコピーを使ってうまく広げていけるといいですね。 (三輪部会長) おまけがカードでもいいと思うんですよ。 (東海林委員) どこか市立小学校の6年生とかにピンポイントで1クラス参加してもらって。中学生も。全部やると大変だから、そういうものを作って、その方にカードを渡すなりというようなことはいいですよ。そうすると、偶然通りかかった、たまたま区役所に来た小学生というのがいるかどうか分からないけれども、ただ、そうやって、小学生が投票してこうだったとか、中学生がこうだったとか、高校はこうだったとか、建築の学生はこうだったというふうな戦略的なピックアップの仕方がないと広がらないんだろうなと思いますね。流しておいて網にかかったやつを引き上げるというよりも、ちゃんとピンポイントで取りに行かないと。 (真田委員) だから、認知度を広げるという意味では広く流しておくというのと、それに加えてどこかに行って聞くという、両方組み合わせたらいいのかなと思います。さっきのやり方だと、投票ではなくアンケートだと、そういう広い話とピンポイントで聞いた話が、別に両方あっても矛盾しないとかバツティングしないので、それでいいのかなと。 (三輪部会長) どうですか、大体。
--	---

	(立石書記) いろいろ頂きまして。今回これを委員の皆様にご提案する中でも、いろいろ職員とも話をしながらやってきまして、バッジの件も、予算無いけどね、予算取れないんだけどというところもありながら、アイデアとして提示しないと、委員の皆様からのご意見も頂けないということでお示しさせていただきました。これから他都市の事例も、もうちょっと深掘りして調べた上で、今日頂いた意見をしっかりと参考にして検討した上で、また次回、10月に予定しておりますので、ご提案したいと思います。その間に、我々もいろいろ悩む可能性がありますので、申し訳ないんですが、メール等でお問い合わせさせていただくこととか、電話等でもありますので、そのときは快くアドバイスを頂ければと思います。よろしくお願いいたします。 (三輪部会長) よろしくお願います。では、大体意見を出していただきましたが、まずやってみようということまではオーケーになりましたのと、あとはいろいろなやり方とか先生方からご意見がありました。往々にして1位というのは、市民賞1本みたいなのは、我々が賞を出さないのにどうなんだという話も多分あるので、なかなかそれは難しいかなと思うのと、何のためにみたいところとか、その辺の戦略をもうちょっと考えていただいて、試しにやってみるということでもいいとは思いますが、その辺を整理してまた次回出していただければと思います。よろしいでしょうか。委員の皆様も大丈夫ですか。ありがとうございます。 (2) その他 (三輪部会長) では、議事1が終了したんですけれども、その他、事務局のほうからいかがでしょうか。 (立石書記) 特にございません。 (三輪部会長) 分かりました。では、これで、今日はちょっと早く終わりました。議事は終わりましたが、次回の日程についても一度お願いいたします。 (立石書記) 先ほど来お話ししていますけれども、色々検討させていただいて、10月頃予定しております。また日程の方は改めて調整させていただきます。 (三輪部会長) 早めに日程調整をよろしくお願いいたします。 (立石書記) 今日の議事録なんですけれども、作成後、部会長にご確認いただいた上で公開いたします。今日はディスカッションのようになっているので、誰が発言したかというところについては録音をしっかりと確認して入れておきます。 (三輪部会長) では、これで終わりですよろしいですか。 3 閉 会 (三輪部会長) 本日の会議はこれで終了いたします。ご議論ありがとうございました。活発なご意見ありがとうございました。 (立石書記) お忙しいところありがとうございました。
資 料	・次第、参加者名簿 ・資料1 : 横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門の概要について 別添：記者発表資料、表彰式の様子等 ・資料2 : 第12回横浜・人・まち・デザイン賞 意見及び対応結果一覧表 ・資料3 : 第13回横浜・人・まち・デザイン賞の改善取組について ・資料4 : 第13回横浜・人・まち・デザイン賞 スケジュール (案) ・参考資料1：表彰広報部会設置要綱 ・参考資料2：横浜まちづくり顕彰事業実施要綱

	・参考資料３：横浜まちづくり顕彰事業実施細目
特記事項	